

～ 清水南遺跡周辺の出来事 中世を中心に ～

平安時代の終わりごろになると、「武蔵七党」と呼ばれる武士団が出現しました。このうち、丹党には、勅使河原・長浜・安部・新里・小島・榛沢など上里周辺の地名を名乗る氏族がいました。

中世には、清水南遺跡の北西に金窪城、南西には金窪南城（現在の陽雲寺）が築かれました。1582年織田信長が本能寺で討たれると、織田方の滝川一益軍と後北条氏軍が、神流川を挟んで激突した「神流川合戦」が起こります。後北条氏が勝利しましたが、この合戦において金窪城や陽雲寺・大光寺など周辺の寺社の多くが焼失しました。戦国時代の「関東最大の野戦」といわれています。

その後、川窪（武田）信俊が、徳川氏の旗本として金窪を知行し、金窪城を陣屋にしました。江戸時代になると五街道が整備され、人や物資の流れの中心がそれまで金窪城付近を通過していた三国街道から中山道へ移り、現在に至っています。

金久保地域周辺の中世年表

1177～80（治承年間）	丹党の加治家季が金窪城（上里町金久保）を築いたと伝わる。
1184（元暦元）	勅使河原有直・有則は源義経・範頼軍に従い、京で木曾義仲軍と戦う。
1205（元久2）	陽雲寺（上里町金久保）が創建される。当時は満願寺と呼ばれた。
1221（承久3）	承久の乱の宇治川合戦で、鎌倉幕府の安部実光らが戦死。
1331～34（元弘年間）	金窪城が新田義貞により修復され、畑時能に城を守らせたと伝わる。『新編武蔵風土記稿』によれば、畑時能が金窪城を築城し、のち新田義貞の家臣である長浜六郎左衛門が居城する。
1492（明応元）	大島昌広が金窪南城（現在の陽雲寺）を築城する。
1582（天正10）	神流川合戦。滝川一益と後北条氏が戦い、後北条氏が勝利する。
1591（天正19）	川窪信俊が、金窪を知行する。このとき、信俊のおば（武田信玄夫人）は陽雲寺に居住する。
1698（元禄11）	武田氏（川窪氏から復姓）の知行替えにより、金窪城が廃城となる。金窪村から、毘沙吐村・黛村・忍保村が分村する。

清水南遺跡から発見された大型建物跡の時期は、伝承に残る金窪城（金窪館）が造られた時期と近いもので、中世の地域のすがたを明らかにする資料と考えられます。

令和5年度 第2回 遺跡見学会資料 令和5年9月16日（土）

上里町 清水南遺跡（第2次）



清水南遺跡は、神流川・烏川によって形成された扇状地に位置する遺跡です。西側には金久保内出遺跡が隣接しています。また、北西に金窪城跡、西に神流川古戦場跡があります。

発掘調査では、中世（鎌倉時代から室町時代頃）と考えられる大型の建物跡や、たてあなじょういこう 竪穴状遺構、溝跡などが多数検出されています。

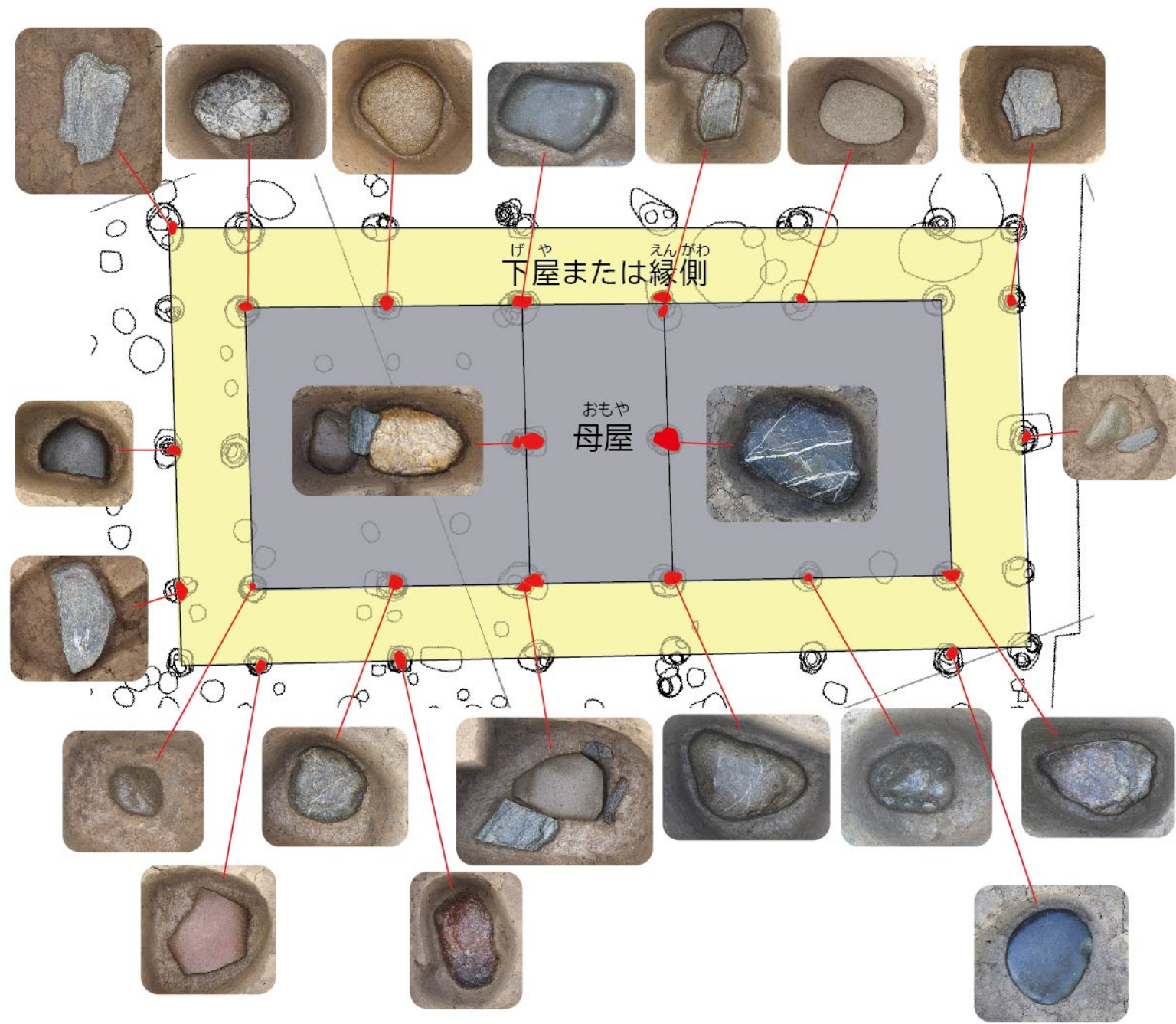
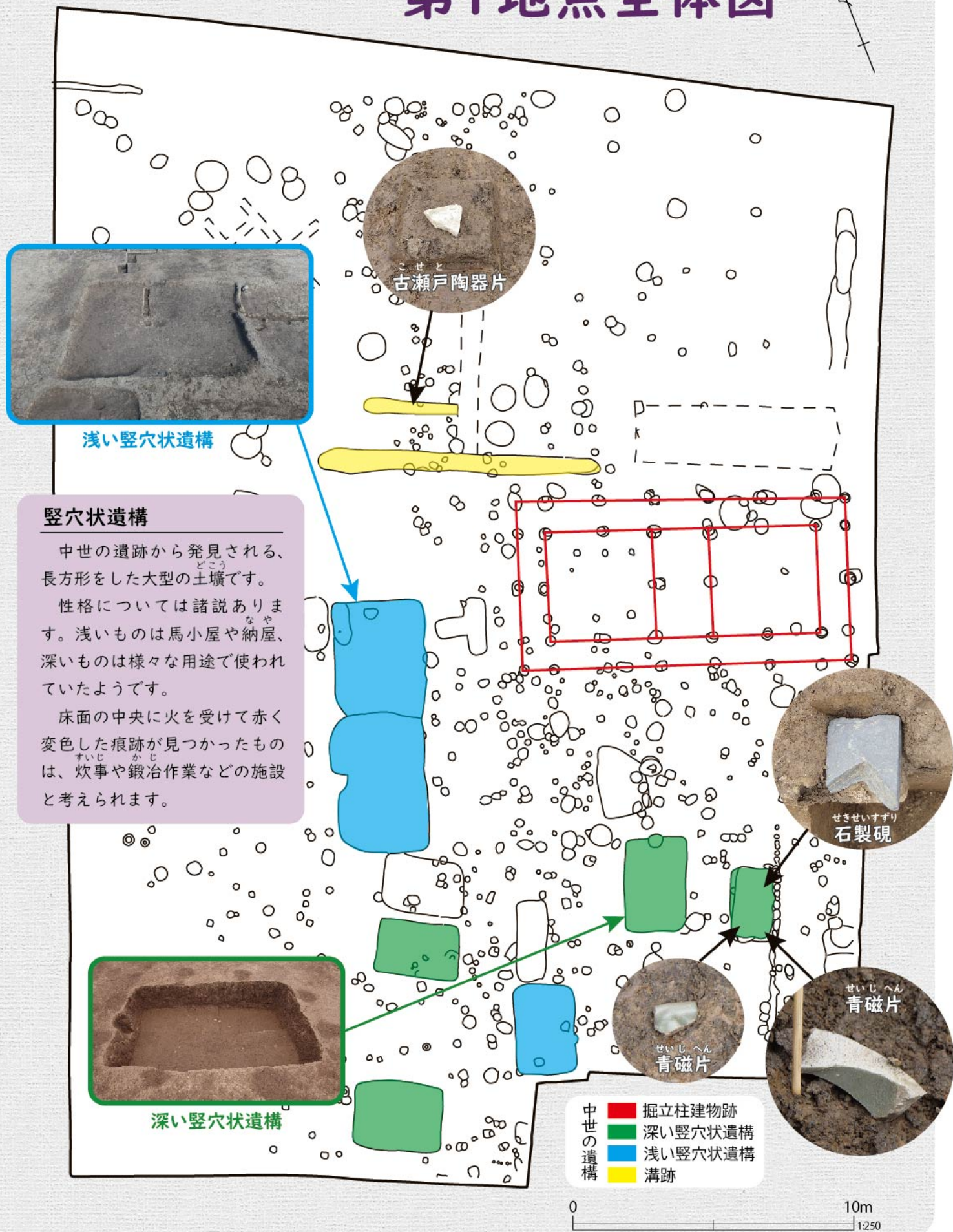
特に、大型建物跡の柱穴の中には、柱が沈まないように大きな石が据えられていました。当時の建物の構造を知る貴重な手がかりが見つかりました。また、しっかりとした構造から格式の高い建物と思われ、鎌倉時代から室町時代に有力者がいたと考えられます。これらは地域の歴史を紐解く重要な発見となりました。

主催 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
住所：熊谷市船木台4丁目4番地1
電話：0493-39-3955 URL：https://www.saimaibun.or.jp

共催 国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所
埼玉県教育委員会
上里町教育委員会

清水南遺跡 (第2次)

第1地点全体図



第1号掘立柱建物跡から検出された礎盤石 (埋設礎石)

見つかった大型の建物跡は母屋の周りに屋根を付け、壁で囲った下屋または縁側がつく構造と考えられます。多くの柱穴から、長さ10~40cm程の石が検出されました。これらは、柱を支えた礎盤石(埋設礎石)と考えられます。建物の中央部分にも礎盤石を持つ柱穴があるため、板張りの床をもつ建物の可能性があります。

大型建物跡から出土した遺物は、今のところありません。周辺の竖穴状遺構や溝跡からは、愛知県で作られた陶器(古瀬戸)の破片や、中国の宋の時代に生産された青磁の破片などが出土しています。いずれも鎌倉時代から室町時代前半頃のものと考えられます。

大型建物跡は竖穴状遺構、溝跡と方向を揃えて並んでいることから、いずれも同じ時代の関連性が高い施設と推定されます。